

高校野球特別規則（2023年度版）改正の要点解説

1. 高校野球で使用できるバット（一部追記）

軟式についても同じであるため、文言を追記した。また、軟式野球において、複合バットの使用はできないことおよび金属製バットの本体色は単色とするとも追記した。
 3. 両耳付きヘルメットの着用（一部変更）

ボールボーイの名称をボールパーソンに変更した。
 5. 試合到着遅れの選手の取り扱い（一部削除および変更）

取り扱いについて変わりはないが、下記のとおり文章を一部変更した。

何かの理由で当該選手だけが試合会場に遅れてきた場合の取り扱いは次の通りとする。

▽ 出場選手は大会規則等^等で定められた時刻までに球場に到着しなければならない。何かの理由で当該選手だけが遅れてきた場合、大会本部がやむを得ないと認めた理由がない限り、試合開始の挨拶で両チームが整列するまでに到着しなければ試合に出場することができない。ただし、試合出場が認められない選手であってもベンチに入ることは許される。（規則 4.03）
 12. 控え投手および既に出場している投手の取り扱い（全文削除および下線部を追記）

投手交代と思い誤った控え投手および既に出場している投手がマウンドに行った場合、交代の基準を明確にするために下記の文章に変更した。

控え投手が交代と思い誤って投手板に着いた場合や、投手が打者あるいは走者で前のイニングが終了し、ダッグアウトに戻らずにマウンドに向かい投手板に着いた場合は、準備投球を始めれば、第1打者がアウトになるかあるいは一塁に達するまで、投球する義務がある。ただし、その打者に代打者が出た場合、またはその投手が負傷または病気のために、投球が不可能になったと球審が認めた場合は除く。
 15. タイムの制限（一部削除および変更）

タイブレークを10回から開始することの変更に伴い、(1)②および(2)②の一部文章を削除した。

また、(1)⑥の投球練習の文言を“準備投球”に変更した。
 22. 継続試合の取り扱い（一部削除および追記）

タイブレークを10回から開始することの変更に伴い、(2)の一部文章を削除した。
 23. タイブレーク制度の採用（一部変更および追記、削除）

タイブレークを10回から開始することの変更に伴い、(2)①②のイニング数を9回および10回に変更した。また、継続試合を含め1人の投手が登板できるイニング数を明確にするために、⑤を「1人の投手が1日に登板できるイニング数については15イニング以内とする。」と下線部を追記した。さらに、今回の変更で「明治神宮野球大会」と「国民体育大会（硬式・軟式）」のタイブレーク規定が同じとなったため、⑥※以降の文章を削除した。
- <付記> 1. 投手の投球制限（一部変更）

試行期間が2024年まで延長された。